試験開始の指示があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。

V

数　学　①　　旧数学Ⅰ・旧数学A　（100点 60分）

Ⅰ　注　意　事　項

1　解答用紙に，正しく記入・マークされていない場合は，採点できないことがあります。特に，解答用紙の**解答科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は，0点となります。**

2　出題科目，ページ及び選択方法は，下表のとおりです。

〔**新教育課程履修者**〕

出題科目	ページ	選択方法
数学Ⅰ	4～16	左の2科目のうちから1科目を選択し，解答しなさい。
数学Ⅰ・数学A	17～31	

〔**旧教育課程履修者**〕

出題科目	ページ	選択方法
数学Ⅰ	4～16	左の4科目のうちから1科目を選択し，解答しなさい。
数学Ⅰ・数学A	17～31	
旧数学Ⅰ	32～39	
旧数学Ⅰ・旧数学A	40～47	

3　試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を高く挙げて監督者に知らせなさい。

4　**選択問題については，いずれか2問を選択**し，その問題番号の解答欄に解答しなさい。

5　問題冊子の余白等は適宜利用してよいが，どのページも切り離してはいけません。

この注意事項は，問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。

6　**不正行為について**

①　不正行為に対しては厳正に対処します。

②　不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は，監督者がカードを用いて注意します。

③　不正行為を行った場合は，その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

7　試験終了後，問題冊子は持ち帰りなさい。

Ⅱ　解答上の注意

1　解答は，解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。

2　問題の文中の $\boxed{\text{ア}}$ ，$\boxed{\text{イウ}}$ などには，特に指示がないかぎり，符号(－，±)又は数字(0 ～ 9)が入ります。**ア**，**イ**，**ウ**，…の一つ一つは，これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙の**ア**，**イ**，**ウ**，…で示された解答欄にマークして答えなさい。

例　$\boxed{\text{アイウ}}$ に－83と答えたいとき

ア	● ⊕ ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
イ	⊖ ⊕ ⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ● ⑨
ウ	⊖ ⊕ ⓪ ① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

なお，同一の問題文中に $\boxed{\text{ア}}$ ，$\boxed{\text{イウ}}$ などが2度以上現れる場合，原則として，2度目以降は，$\boxed{\text{ア}}$ ，$\boxed{\text{イウ}}$ のように細字で表記します。

3　分数形で解答する場合，分数の符号は分子につけ，分母につけてはいけません。

例えば，$\dfrac{\boxed{\text{エオ}}}{\boxed{\text{カ}}}$ に $-\dfrac{4}{5}$ と答えたいときは，$\dfrac{-4}{5}$ として答えなさい。

また，それ以上約分できない形で答えなさい。

例えば，$\dfrac{3}{4}$ と答えるところを，$\dfrac{6}{8}$ のように答えてはいけません。

4　根号を含む形で解答する場合，根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。

例えば，$\boxed{\text{キ}}\sqrt{\boxed{\text{ク}}}$ に $4\sqrt{2}$ と答えるところを，$2\sqrt{8}$ のように答えてはいけません。

5　根号を含む分数形で解答する場合，例えば $\dfrac{\boxed{\text{ケ}}+\boxed{\text{コ}}\sqrt{\boxed{\text{サ}}}}{\boxed{\text{シ}}}$ に $\dfrac{3+2\sqrt{2}}{2}$ と答えるところを，$\dfrac{6+4\sqrt{2}}{4}$ や $\dfrac{6+2\sqrt{8}}{4}$ のように答えてはいけません。

「新教育課程履修者」は，選択できません。

旧数学Ⅰ・旧数学A

(全　問　必　答)

第1問 (配点　20)

〔1〕 k, a, b, c を実数とする。x の4次式

$$x^4 + 5x^3 + 6x^2 + kx - 8$$

は

$$(x^2 + ax + 4)(x^2 + bx - c)$$

と因数分解されているとする。

(1) $c = \boxed{\text{ア}}$ である。

(2) $a < b$ ならば，$a = \boxed{\text{イ}}$，$b = \boxed{\text{ウ}}$ であり，このとき $k = \boxed{\text{エオ}}$ となる。

$a \geqq b$ ならば，$a = \boxed{\text{カ}}$，$b = \boxed{\text{キ}}$ であり，このとき $k = \boxed{\text{クケ}}$ となる。

(旧数学Ⅰ・旧数学A第1問は次ページに続く。)

〔2〕 条件 p_1，p_2，q_1，q_2 の否定をそれぞれ $\overline{p_1}$，$\overline{p_2}$，$\overline{q_1}$，$\overline{q_2}$ と書く。

(1) 次の $\boxed{\text{コ}}$ に当てはまるものを，下の⓪～③のうちから一つ選べ。

命題「$(p_1$ かつ $p_2) \Longrightarrow (q_1$ かつ $q_2)$」の対偶は $\boxed{\text{コ}}$ である。

⓪ $(\overline{p_1}$ または $\overline{p_2}) \Longrightarrow (\overline{q_1}$ または $\overline{q_2})$

① $(\overline{q_1}$ または $\overline{q_2}) \Longrightarrow (\overline{p_1}$ または $\overline{p_2})$

② $(\overline{q_1}$ かつ $\overline{q_2}) \Longrightarrow (\overline{p_1}$ かつ $\overline{p_2})$

③ $(\overline{p_1}$ かつ $\overline{p_2}) \Longrightarrow (\overline{q_1}$ かつ $\overline{q_2})$

(2) 自然数 n に対する条件 p_1，p_2，q_1，q_2 を次のように定める。

p_1：n は素数である

p_2：$n+2$ は素数である

q_1：$n+1$ は5の倍数である

q_2：$n+1$ は6の倍数である

30以下の自然数 n のなかで $\boxed{\text{サ}}$ と $\boxed{\text{シス}}$ は

命題「$(p_1$ かつ $p_2) \Longrightarrow (\overline{q_1}$ かつ $q_2)$」

の反例となる。

第2問 (配点 25)

2次関数

$$y = -x^2 + 2x + 2 \quad \cdots\cdots\cdots ①$$

のグラフの頂点の座標は$\left(\boxed{\text{ア}},\ \boxed{\text{イ}}\right)$である。また

$$y = f(x) \quad \cdots\cdots\cdots ②$$

はxの2次関数で，そのグラフは，①のグラフをx軸方向にp，y軸方向にqだけ平行移動したものであるとする。

(1) 下の $\boxed{\text{ウ}}$，$\boxed{\text{オ}}$ には，次の⓪～④のうちから当てはまるものを一つずつ選べ。ただし，同じものを繰り返し選んでもよい。

⓪ $>$　　① $<$　　② $\geqq$　　③ $\leqq$　　④ $\neq$

$2 \leqq x \leqq 4$における$f(x)$の最大値が$f(2)$になるようなpの値の範囲は

$$p\ \boxed{\text{ウ}}\ \boxed{\text{エ}}$$

であり，最小値が$f(2)$になるようなpの値の範囲は

$$p\ \boxed{\text{オ}}\ \boxed{\text{カ}}$$

である。

(旧数学Ⅰ・旧数学A第2問は次ページに続く。)

(2)　② のグラフが点$(-2,\ 0)$を通るとき

$$q = p^2 + \boxed{\text{キ}}\,p + \boxed{\text{ク}},$$

$$f(x) = -\left(x + \boxed{\text{ケ}}\right)\left(x - \boxed{\text{コ}}\,p - \boxed{\text{サ}}\right)$$

である。

(3)　2次不等式$f(x) > 0$の解が$-2 < x < 3$になるのは

$$p = \frac{\boxed{\text{シス}}}{\boxed{\text{セ}}},\qquad q = \frac{\boxed{\text{ソタ}}}{\boxed{\text{チ}}}$$

のときである。

第3問 （配点　30）

△ABCにおいて，AB $= \sqrt{7}$，BC $= 2$，CA $= 3$ とする。このとき，

$\cos\angle C = \dfrac{\boxed{\text{ア}}}{\boxed{\text{イ}}}$ であるから，$\sin\angle C = \dfrac{\sqrt{\boxed{\text{ウ}}}}{\boxed{\text{エ}}}$ で，△ABCの外接円Oの半径は $\dfrac{\sqrt{\boxed{\text{オカ}}}}{\boxed{\text{キ}}}$ である。また，円Oの，Cを含まない弧 $\overset{\frown}{\mathrm{AB}}$ と，弦ABで囲まれた図形の面積は

$$\frac{\boxed{\text{ク}}}{\boxed{\text{ケ}}}\pi - \frac{\boxed{\text{コ}}\sqrt{\boxed{\text{サ}}}}{\boxed{\text{シス}}}$$

である。ただし π は円周率である。

（旧数学Ⅰ・旧数学A第3問は次ページに続く。）

辺 BC を C の側に延長して CD = 5 となるように点 D をとると

$$AD = \boxed{\text{セ}}$$

である。

辺 AB の A の側の延長と△ACD の外接円との交点で A と異なるものを E とする。このとき，AB・EB = $\boxed{\text{ソタ}}$ であるから，AE = $\sqrt{\boxed{\text{チ}}}$ であり

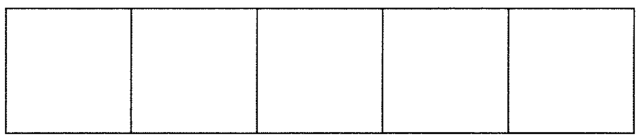
$$\frac{\triangle ABC\text{ の面積}}{\triangle EBD\text{ の面積}} = \frac{\boxed{\text{ツ}}}{\boxed{\text{テ}}}$$

である。

また，△EBD の重心を G とすると，DG = $\dfrac{\boxed{\text{トナ}}}{\boxed{\text{ニ}}}$ である。

第4問 （配点　25）

同じ大きさの5枚の正方形の板を一列に並べて，図のような掲示板を作り，壁に固定する。赤色，緑色，青色のペンキを用いて，隣り合う正方形どうしが異なる色となるように，この掲示板を塗り分ける。ただし，塗り分ける際には，3色のペンキをすべて使わなければならないわけではなく，2色のペンキだけで塗り分けることがあってもよいものとする。



(1)　このような塗り方は，全部で $\boxed{\text{アイ}}$ 通りある。

(2)　塗り方が左右対称となるのは，$\boxed{\text{ウエ}}$ 通りある。

(3)　青色と緑色の2色だけで塗り分けるのは，$\boxed{\text{オ}}$ 通りある。

(4)　赤色に塗られる正方形が3枚であるのは，$\boxed{\text{カ}}$ 通りある。

（旧数学Ⅰ・旧数学A第4問は次ページに続く。）

(5) 赤色に塗られる正方形が1枚である場合について考える。

- どちらかの端の1枚が赤色に塗られるのは，$\boxed{\text{キ}}$ 通りある。
- 端以外の1枚が赤色に塗られるのは，$\boxed{\text{クケ}}$ 通りある。

よって，赤色に塗られる正方形が1枚であるのは，$\boxed{\text{コサ}}$ 通りある。

(6) 赤色に塗られる正方形が2枚であるのは，$\boxed{\text{シス}}$ 通りある。

(7) (1)で考えた $\boxed{\text{アイ}}$ 通りの塗り分けを行った掲示板をすべて用意し，その中から1つの掲示板を選ぶ試行を行い，赤色に塗られた正方形の枚数を数える。

このとき，赤色に塗られた正方形の枚数の期待値は，$\dfrac{\boxed{\text{セ}}}{\boxed{\text{ソ}}}$ である。